

序論)

世の中には様々な理不尽があります。

子どもの時代だと、友達と遊ぶのを約束したのにその約束を守ってもらえなかったり、他の子が悪いのに自分が悪いと決めつけられてしまったり、素直な気持ちをいっているのに我儘だと言われて自分の気持ちを理解してもらえなかったり。そうゆう理不尽に直面するし、

大人になっても、自分の仕事を正しく評価してもらえなかったり、職場にえこひいきがあったり、上司の指示が一貫していなかったり、お金を騙し取られたり、セクハラ、パワハラなどがあったり、多くの人が色々な理不尽と戦っています。

イザヤが預言を伝えていた南ユダ王国のヒゼキヤもアッシリアによって理不尽な目にあっていました。ご存知のようにこの時勢力を誇っていたのはアッシリア帝国です。ヒゼキヤ王はそのアッシリア帝国からの攻撃をさけるため、自分の王宮の財産や、エルサレム神殿にある金や銀を差し出してアッシリアの王セナケリブに手を引いてもらう約束をしました。ところが、アッシリアはどうしたかというとタルタン、ラブ・サリス、ラブ・シャケといった將軍と大軍をエルサレムに送って、ユダ王国の市民からもお金を巻き上げ、妻や娘を差し出して降伏せよ。と脅してきたのです。ヒゼキヤの時代、南ユダ王国の人々はまさにアッシリアによる理不尽の只中にいました。

そのような中でそのアッシリアに代表される【主】の民の敵に対する裁きのメッセージと、エルサレムに居ながらも【主】を信じない不信仰な民に対する悔い改めのメッセージが書かれているのが今日の箇所です。

1) 敵対者へのメッセージ

まずは1節を読んでみましょう。

33:1 わざわいだ。自分は踏みにじられなかったのに、人を踏みにじり、裏切られなかったのに、人を裏切るあなたは。自分が踏みにじることを終えるとき、あなたは踏みにじられ、裏切りをやめるとき、あなたは裏切られる。

まさにこのみことばは、南ユダ王国を裏切ったアッシリアのことを言っています。彼らは「裏切りの戦略」を使いながら、周辺諸国から財産を巻き上げ、弱小国を占

領していったのです。でも、神様はそのような裏切る者が裏切られる時がくる、踏みにじった者が踏みにじられる時がくると言われています。

そして、この預言を受けたイザヤは【主】に祈ります。2節、3節

33:2 【主】よ、あわれんでください。私たちはあなたを待ち望みます。朝ごとに私たちの腕となり、苦難の時の、私たちの救いとなってください。

33:3 その鳴りとどろく声に、もろもろの民は逃げ、あなたが立ち上がると、国々は散らされます。

イザヤは、アッシリアのような裏切り者の裏切り行為を目の当たりにし。南ユダ王国が理不尽に苦しんでいるのを見ながら。【主】に対して、『【主】よ、あわれんでください。私たちはあなたを待ち望みます。』と祈ります。これはただの哀れみを求めるだけの祈りではなくって、【主】に懇願しつつも、【主】が必ず立ち上がってくださることを信じた上での祈りとなっています。だから、3節で『その鳴りとどろく声に、もろもろの民は逃げ、あなたが立ち上がると、国々は散らされます。』と言って、【主】に対する信頼が語られています。

その上でまた、預言的なことばが4節にある。

33:4 あなたがたの分捕り物は、いなごの若虫が集まるように集められ、いなごの群れが飛びつくように人々はそれに飛びつく。

世の中には蝗害というイナゴやバッタによって植物が食い尽くされてしまうという災害がありますが、あの蝗害はおとなのイナゴだけでおこるわけではありません。イナゴが植物をたべて産卵し、その卵から生まれたイナゴの幼虫がまた植物を食べて成長し、そのやってどんどん増え広がりながら植物を食い尽くしてしまうというのが蝗害です。

神様は、アッシリアのように裏切り戦略によって財産を巻き上げ、弱者からすべてを奪って富を蓄えたものを、イナゴが植物をことごとく食い尽くしてしまうように、裏切り者の富をすべて奪い取られると言うのです。

みなさん、世の中には色々な裏切りや理不尽がありますけども、【主】はそのようなやり方で栄えた者をそのまま放置されるお方ではありません。アッシリアのように裏切りによって富を蓄えた者の富を、【主】はことごとく奪い取られ、【主】の民の敵の栄光を全部、なくしてくださるお方なのです。

だから、私達はイザヤのように『【主】よ、あわれんでください。』と祈りながら、同時にこの世の理不尽を生み出す者を全部退けてくださることを信じて、『私たちはあなたを待ち望みます。』と祈っていくことが大切です。

みなさん、この預言は、狭い意味ではアッシリアに対する預言ですが、同時に、この世のすべての理不尽を生み出す者、裏切る者に対する預言でもあります。

【主】は終わりの日に必ず、【主】の民の敵の栄光を奪い去ってくださるお方です。

2) 【主】の国を堅くたてる【主】

そして、【主】は敵対者の栄光を奪い去るだけでなくって、公正と正義に満ちた神の国を建てあげてくださいます。それが書かれているのが5節と6節です。

33:5 【主】はいと高さ方で、高い所に住み、シオンを公正と義で満たされる。

33:6 主はあなたの時を堅く支え、救いと知恵と知識の富となられる。【主】を恐れることは、その財宝である。

5節にあるシオンというのはエルサレムのことです。ただ、ここでいうシオンはいわゆるこの世の物理的なエルサレムというよりは、世の終わりの時に【主】が建てあげてくださるシオン、約束のエルサレムのことだと理解したほうがいいでしょう。

神様はかならず、公正と義に満ちあふれた神の国をたてあげてくださるのです。そして、その神の国において富とか財産になるのは、この世のお金ではなくって、知恵と知識、そして、【主】を恐れることだと6節には書かれています。

神の国において大切なのはいっぱいお金を持つことではなくって、【主】を知り、【主】の知識を持ち、【主】を恐れているかどうかなのです。

そして、その神の国でもっともそのような富を持っておられるお方が【主】イエスキリストです。なぜか？エッセイの根として誕生されたキリストこそ、【主】の知恵と知識をもち、【主】を恐れる霊を持っておられるお方だからです。

今日からアドベント、【主】の御降誕を覚える月になりましたので、イザヤ書11章のキリスト預言の箇所を読んでみましょう。イザヤ書11章1節から4節

11:1 エッセイの根株から新芽が生え、その根から若枝が出て実を結ぶ。

11:2 その上に【主】の霊がとどまる。それは知恵と悟りの霊、思慮と力の霊、【主】を恐れる、知識の霊である。

11:3 この方は【主】を恐れることを喜びとし、その目の見るところによってさばかず、その耳の聞くところによって判決を下さず、

11:4 正義をもって弱い者をさばき、公正をもって地の貧しい者のために判決を下す。口のむちで地を打ち、唇の息で悪しき者を殺す。

これはまさに【主】イエスキリストのことを預言しているみことばですが、先程のイザヤ書 33 章の 5-6 節を非常にマッチしていることがわかります。

神様は神の国を公正と正義でみたされる。そして、その神の国において富となり、財宝となるのは知恵と知識と【主】を恐れること。

約 2000 年前にこの地上にきてくださった【主】イエスキリストは、まさに神の国にける財宝である知恵と知識と【主】を恐れる霊を持っておられ、そして、その富からくる神のことばによって、国民をさばき、弱い者、貧しいものを救われるのです。

神様は、裏切る者、【主】の民の敵対者をさばくと同時に、このキリストによる神の国を建てあげてくださるお方です。そこには公正と義が満ちてますから、当然、理不尽なものは何一つありません。

3) 【主】の民への悔い改めのメッセージ

さて、今日の箇所はこのように敵対者に対する裁きのメッセージと、神の国の建築の預言が語られた後、エルサレムに居ながらも【主】を信頼していなかった者達、【主】を信じず罪を犯していた者たちへの悔い改めのメッセージも語っておられます。まずは 7-9 節を読みます。

33:7 見よ。彼らの勇士は通りで叫び、平和の使者たちは激しく泣く。

33:8 大路は荒れ果てて、道行く者は途絶え、契約は破られて、町々は捨てられ、人は顧みられることがない。

33:9 地は喪に服してしおれ、レバノン^{レバノン}は辱めを受けて枯れ果てる。シャロンは荒野のようになり、バシヤンもカルメルも葉を振り落とす。

7 節の「勇士」と訳されていることばは原文をみるとアリエルと訳せる言葉が使われており、このことばが示すのはエルサレムです。アッシリアからの猛攻を受け、エルサレムの人たちはなんとか、そのピンチを乗り越えるために平和の使者を送ったり、周辺諸国と軍事同盟を結ぶための契約をしようとしますけども、その人間的な努力は^{ことごと} 尽く無駄になってしまい、イスラエルやイスラエル周辺で栄えていた (9 節) レバノン、シャロン、バシヤン、カルメルという町も荒れ果ててしまいました。

つまり、【主】を信頼しないで人間的な努力で乗り越えようとしたその働きは一切

無駄だったということです。エルサレムにしながら、【主】を信頼しなかった者たちの努力はすべて無駄になってしまったのです。

そして、そのような中で【主】は宣言されます。10 節から 12 節。

33:10 「今、わたしは立ち上がる。——【主】は言われる——今、わたしは自らを高く上げ、今、わたしは自らを高める。

33:11 あなたがたは枯れ草をはらみ、藁を産む。あなたがたの息は、自分たちを食い尽くす火だ。

33:12 諸国の民は焼かれて石灰となり、刈り取られて火をつけられる茨となる。」

不信仰ゆえに無駄な努力をしていた【主】の民に対して「今、わたしは立ち上がる」と【主】は言われます。なんのために立ち上がるかということ、第三版の方の訳をみると、「今、わたしは自分を高め、今、あがめられるようにしよう。」となっています。つまり、不信仰で【主】をあがめなかった民が、【主】のさばきの中で【主】の偉大さをして、【主】をあがめるようになる。そのために【主】は立ち上がるといわれているのです。

みなさん、世の終わりには【主】のさばきのわざがあります。それは不信仰な者にとっては恐ろしいものですが、【主】の民にとっては、【主】をあがめる、真の礼拝者となるための最後のチャンスなのです。みなさん、世の終わりを思わされることと直面するとき、それを他人事とするのではなく、不信仰を悔い改め、【主】をあがめるチャンスとしましょう。神様はそのために立ち上がってくださるお方です。だから、13 節のようにいわれている。

33:13 「遠くの者よ、わたしのしたことを聞け。近くの者よ、わたしの力あるわざを知れ。」

「遠くの者」というのはアッシリアのような【主】を知らない、【主】の敵対者のことでしょう。そして、「近くの者」というのは、【主】の都エルサレムにしながらも、【主】に信頼せず、罪を犯してきた者のことです。神様はさばきによってご自分のちからを示される。そして、それによって「わたしを知れ」「わたしの力を知れ」といわれるのです。

そして、それでもなお悔い改めずに罪人でいつづけるのならばどうなるか。14 節

33:14 罪人たちはシオンでわななき、神を敬わない者たちを震えがとらえる。「私たちのうち、だれが焼き尽くす火に耐えられるか。私たちのうち、だれが、とこしえに燃える炉に耐えられるか。」

罪人たちがいる場所はどこですか？ シオン、エルサレムです。だから、このみことばは外国の罪人ではなくって、エルサレムにいる罪人についてのみことばです。彼らは【主】のさばきを目の当たりにする時、「罪人のままの自分では、この【主】のさばきの火に耐えることができない。」そう告白するのです。いふなれば、悔い改めができる今がチャンスだということです。今が、神を敬い、神を信じる者になるチャンスだ。ということです。これを逃したら、【主】のさばきの火に耐えられる者はだれもいないのです。そう聖書はいいます。

そして、最後、15-16 節で神の国に入る事ができるものはどうゆう者かが語られています。

33:15 義を行う者、公正を語る者、強奪による利得を退ける者、手を振って賄賂を受け取らない者、耳をふさいで流血について聞かない者、目を閉じて悪いことを見ない者。

33:16 このような人は高い所に住み、その砦は岩場の上の要害である。彼のパンは備えられ、彼の水は確保される。

(15 節表示)

義を行う者、前回、義というものはどうゆうものか話しました。神様とまっすぐ繋がっている者が義です。神様とまっすぐつながっている者、そして、その神様のさばきである公正さを語る者。そのような人が神の国に入れる人です。

そして、「強奪による利得を退ける者」「手を振って賄賂を受け取らない者」これはつまり、不正によって富を蓄えようとする誘惑に負けない者の事です。

さらに、「耳をふさいで流血について聞かない者」「目を閉じて悪いことを見ない者」・・・「耳をふさいで流血について聞かない者」神様に裁かれなければいけないような事。罪をうながすようなことばを聞かない人のことです。「目を閉じて悪いことを見ない者」というのも基本は同じで、不正を見逃すということではなくって、悪を行わせるようなものから目をそらす人のことです。

つまり、神の国に入れる人ってどう云う人かというと、【主】とまっすぐにつながっている人で、不正な富を得ようとしない人、そして、この世の誘惑に耳もかさないし、目も向けない。そうゆう人だと、聖書はいいます。

みなさん、こうゆう人になれるでしょうか。一生懸命、努力したら【主】とまっすぐつながって、不正な富を得ず、誘惑に負けない。そうゆう人になれるでしょうか。いいえ、人の努力は無駄だということは既に今日の箇所でも語られていました。では、どうしたらいいのでしょうか。神の国で一番の財宝をもっておられるお方、シオンを公正と義で満たされるお方。【主】イエスキリストに頼るしかないのです。

まとめ)

みなさん、【主】は【主】の民の敵の栄光を奪い取られるおかたです。また、【主】を知りながらも、【主】に信頼せず、罪を犯すものに悔い改めを求めるお方です。

なぜならば、今のこの世においては様々な裏切りや理不尽があふれていますが、世に終わりにおいては【主】は必ず、公正と義に満ち溢れるシオン。神の国を建てあげてくださるからです。そして、その神の国においてもっとも富んでおられるお方、もっとも頼りになるお方は【主】イエスキリストです。

自分の努力で自分を助けようとするをやめて、神の国を建てあげてくださる【主】イエスキリストを信頼し、【主】により頼む者となりましょう。そのようにする時、私達は神の国の住民の資格を持つのです。神の国の住人の資格は、神様とのまっすぐな関係を持ち、この世の富に執着しない心と、誘惑に勝利する力を持っている人です。そして、それはイエスキリストによって与えられます。聖書にはこのように書かれています。

第二コリント

Ⅱコリ 5:17 ですから、だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。

みなさん、みなさんの内側に【主】への不信仰はないでしょうか。今がその不信仰を悔い改めるチャンスです。【主】を信じ、【主】を信頼するチャンスです。私達はみことばによって与えられる。このチャンスを無駄にせずに、キリストによって神の国にはいる資格を持つ新しい者となっていきましょう。